

地区社会福祉協議会の取り組みの検証

しもまち地域		ページ
1	入舟地区	1
2	栄地区	3
3	湊地区	4
4	豊照地区	5
5	新潟地区 (旭水地区と合同)	6
6	礎地区	8
7	大畑地区	9
8	旭水地区 (新潟地区と合同)	6
上新潟島地域		
9	鏡淵地区	10
10	白山地区	12
11	浜浦地区	13
12	関屋地区	15
13	有明台地区	16
江東地域		
14	南万代地区	18
15	万代地区	20
16	長嶺地区	21
17	沼垂地区	22
みなみ地域		
18	鳥屋野地区	23
19	上山地区	24
20	女池地区	28
21	上所地区	30
22	紫竹山地区	32
23	笹口地区	33
24	山潟地区	34

1. 入舟地区

1. 目標・目指す姿

- ①集える場所が増え助け合えるまち
- ②若者や子どもや高齢者などみんなが共存できるまち
- ③空き家を含めて将来に備えみんなが考えられるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 顔の見える地域づくり	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。 ・緊急キット事業 R7年1月～ 24自治町内会へ401セット配布。 自治会役員、民生委員と一緒に対象者宅を訪問し取り組んだ。
② 多世代交流	・9月3日（火）日赤新潟県支部、県庁、警察本部へ見学研修会。26名参加。 ・9月8日（日）秋季ふれあいウォーキング ・10月27日（日）「赤ちゃん誕生お祝い交流会」 祝い会6組、交流会8組 伊藤防災士による 「赤ちゃん家庭の防災対策講座」 ・11月10日（日）入舟地区「敬老会」 ・R7年3月2日（日）予定 「お楽しみ会」 新潟市北部総合コミュニティセンター
③ 将来に備えよう	・9月4日（水）「災害時の認知症対応」勉強会 ・10月6日（日）入舟地区合同防災会「認知症の対応」 「毛布を使った避難」「非常食試食」など

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
地域福祉活動計画を検証する会を毎年開き、進捗を確認し、取り組み方については適宜修正していく。	・検証する会は、地区社協役員会などで進捗状況の確認を行っている。

2. 栄地区

1. 目標・目指す姿

- ①世代交流の活性化
- ②ふれあいの場（機会）の確保
- ③人材の育成・他機関との連携強化

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 世代交流の活性化	<ul style="list-style-type: none">・小学校との連携で、回数は多くないが、クラブ活動や総合の学習で交流する機会があった。・コロナ禍以後、新たな交流の機会が実現できていない。
② ふれあいの場（機会）の確保	<ul style="list-style-type: none">・諸事情で今までの会場場所が使えなくなり、新たな会場確保が難しくなっている。・酷暑と高齢化で集会参加などの声掛けをためらうことがあった。自治会単位での開催はあった。
③人材の育成・他機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none">・学校コーディネーターを通して、学校との連絡がスムーズにいった。・高齢化がすすんできたことにより、スタッフの募集、育成が年々困難になっている。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
毎年、地区社協の役員が集まって進捗を確認する。	<ul style="list-style-type: none">・令和7年3月に地区社協役員が集まり、各研修会等の総括を行う。

3. 湊地区

1. 目標・目指す姿

- ①生活の中に相互扶助の力があって住みやすいまち
- ②若い世代の子育てにも配慮のある安心・安全なまち
- ③住民の多様な声に対処できるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 相互扶助	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。 ・「地域の茶の間」や「花めぐり」「健康講座」は、中央区社協の応援を受け予定通り実施できた。
② 子どもの安心安全	・登校時の見守り活動に常時参加する人のほかに、曜日を決めての参加者を若干増やすことが出来た。
③ みんなが参加するイベント	・「子ども体操」、「マジック・もちつき大会」を予定通り実施できた。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
コミ協総会等の事業報告（年1回）の際に進捗を確認する。	・5月開催予定のコミ協総会で事業報告を行う予定である。

4. 豊照地区

1. 目標・目指す姿

- ①福祉・厚生部会（構成4団体）の連携を密にして、助けを求める人を網の目から漏らさないよう支援
- ②災害時における避難支援の拡充
- ③向こう三軒両隣のお付き合いがスムーズで、住んでいてよかったと思える環境づくり

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 安心・安全	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。 能登半島地震時の垂直避難の経験を踏まえ、津波避難施設の整備が喫緊の課題である。老朽化を理由に廃止するとした現津波避難施設について、同地区において避難が容易な代替施設を設置するようコミ協を挙げて行政に求めてゆく。
② 緊急時の避難支援	能登半島地震では自然発生的に避難支援が行われた。1月に入り、行政より津波避難ビルについて民間施設の同意を得た旨連絡あり。ライフラインの無い現避難施設から、より自宅に近い各民間施設へ避難が可能となり、地域住民の安心につながった。
③ 多世代の地域活動への参加	コロナ禍後、体操教室、敬老会、豊照まつり、豆まき大会等開催。各年代の住民が交流した。引き続き、より多くの住民が参加するよう取り組みを進める。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
年に一度コミュニティ協議会福祉厚生部の役員が集まり計画の振り返りを行う。	各イベント実施後の役員会にて、イベント実施の効果、費用対効果、参加者の意見を集約し検証、次回開催時への改善につなげた。

5. 新潟地区（旭水地区と合同）

1. 目標・目指す姿

- ①高齢者も若い人も夢のある街
- ②多世代が交流できる街
- ③地域みんなが集う場所のある街
- ④お互いに助け合い・協力できる街

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 高齢者も若い人も夢のある街	〈新潟地区〉 令和5年度に地域からの要望もあり緊急情報キットを、16自治会100名近い希望者に配布、これからは自治会長、民生委員に安否確認や希望を聞いてもらい活動の枠を広げられる事に期待している。 〈旭水地区〉 多世代が交流し、お互いに話し合い、尊重し合い、助け合っていくことで、充実したまちづくりにつながる。
② 多世代が交流できる街	〈新潟地区〉 夏の海岸清掃や海岸の松くい虫対策などコミ協や地域の皆様と協力して活動していく。 〈旭水地区〉 7月に、子ども会、保護者、町内会役員等50人で西海岸公園にて草取りを行った。その時のドローン映像を秋季例祭日のアトラクションで流し、参加者（約200人）にアピールした。
③ 地域みんなが集う場所のある街	〈新潟地区〉 寄居コミハウスが坂の途中にあることや雨漏りなど老朽化で行事計画は限られたものになっているので新コミハウス計画に期待している。

③ 地域 みんなが集う場所のある街	<p>〈旭水地区〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「旭水の茶の間」を毎月開催し、講演会なども企画し内容の充実が図られている。 ・旭稲荷神社の春秋例祭のアトラクションでは景品を多数用意し、大きなサイコロ投げ、くじ引きなど好評で親子等、約 200 人が参加された。
④ お互いに助け合い・協力できる街	<p>〈新潟地区〉</p> <p>コミ協、赤十字、小、中学校 PTA などと協力して防災訓練や小学校の「寄居かぶ」作りや中学校の音楽演奏会など学校行事に参加している。</p> <p>〈旭水地区〉</p> <p>9月に 77 才以上の方を対象に、見守りと健康確認を兼ねて敬老祝金を直接手渡しで配布している。その際、変更があれば緊急通報先もお聞きし、事務所で保管している。</p>

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無 (詳細も記入)
<p>毎年の総会等の機会に計画の進捗を確認し、取り組み方については適宜修正していく。</p>	<p>〈新潟地区〉</p> <p>定例総会での活動報告はもちろん、社協だよりを発行するなど、社協の活動を少しでも地域の皆様に理解していただけるよう努める。</p> <p>〈旭水地区〉</p> <p>町内会役員会で協議検討し、総会では報告し、意見・要望をお聞きしている。</p>

6. 礎地区

1. 目標・目指す姿

- ①自治会・町内会の活性化～地域の人との交流が図れるまち～
- ②健康を保てるまち
- ③声かけしあえるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 地域の交流	・住民が地域に関心を持つように、地域の行事など交流の場を多くできるように取り組んだ結果、三世代の間に関心が持てるようになった。
② 住民の健康	・行事の開催の時や配布物などの時に声掛け、健康の啓発を行うことが出来た。
③ 住民同士の声かけ	・各町内で見守り挨拶・声かけに取り組んだ。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
毎年の総会等の機会に計画の進捗を確認し、取り組み方については適宜修正していく。	・前回の計画とも照らし合わせながら、コミ協の会議にて計画を立て、総会時に進捗を確認し、適宜修正をした。

7. 大畑地区

1. 目標・目指す姿

- ①ご近所でお互い支え合い、助け合うまちづくり
- ②誰もが安心・安全に暮らせるまち
- ③みんながいきいきと生活し、気軽に交流できるまち
- ④災害時にみんなで助け合う体制づくりがあるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 交流の活性化	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。 ・地域でのイベントを行うことで、社協の存在感と役割を認知してもらい、各自治会と地域住民同士の交流の場を増やしていく。
② 見守り	・各自治会長、町内会長よりイベントの告知をしてもらうことで、声掛け安否確認ができ、見守り活動へ繋げていく。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
毎年の総会等の機会に計画の進捗を確認し、取り組み方については適宜修正していく。	・各種、集会での参加者を増やしていく。

9. 鏡淵地区

1. 目標・目指す姿

- ① 困りごとを気軽に相談できるまち
- ② 声掛け・あいさつをして、安心して暮らせるまち
- ③ 住民同士の交流を盛んに行い、みんなが知り合えるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 困りごとを気軽に相談できる	<p>◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の茶の間で地域包括支援センターの方が来てくださり、色々な相談ができた。・ご近所、地域の茶の間、催し物の集まり、地域包括支援センター他の相談できる環境はあるが、参加者の顔ぶれが同じなので、家にこもっている人（一人暮らしの高齢者、ヤングケアラー等）の相談事をどうくみ取るか、相談先にどう結びつけられるかが問題である。
② 安心・安全なまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・今年度開催された「鏡淵地区はいかい模擬訓練」が参考になり解決した事例があった。・能登半島地震の時に避難所の鍵が開かなかったり、他の問題点も地域の防災部で話し合い改善策を立てた。・買い物が不便な町内があったが、スーパーが3月にできることにより安心して買い物ができるようになる。・空き家が多くなり放火が心配である。・地震により道路の損傷や、それに伴う大型工事車が多くなり危険を感じる。・災害時に地域と中学生のレスキュー隊が連携できるよう働きかけたい。

<p>③ 住民同士の交流をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三世代運動会、三世代豆まき大会、地域のつどいなど、若い世代の行事も多く、参加人数も増えてきて三世代交流ができています。それに伴い人材不足の町内会役員、学校のボランティアなどに、若い人が参加してもらいたいと思うので、どうしたら参加してもらえるかが課題である。 ・いくつかの地域の茶の間で参加者が増えている。4月より休止中の地域の茶の間再開と男性の茶の間実施予定。新設の地域の茶の間も予定。
----------------------	---

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
<p>コミ協と一緒に年に1度集まり計画の進捗確認を行う。</p>	<p>・令和7年1月22日「第3期振り返りの会」実施。 中央区社会福祉協議会、鏡淵地区社会福祉協議会、鏡淵地区コミュニティ協議会、鏡淵小学校、白新中学校の地域コーディネーター、地域の茶の間代表、地域包括支援センター、新潟市健康福祉課、地域の防災士の方に参加していただき有意義な会となった。</p>

10. 白山地区

1. 目標・目指す姿

- ①声掛け・あいさつのあふれるまち
- ②行事にみんなが集う世代交流
- ③向こう三軒両隣助けあいで安心できるまち
- ④高齢者が活躍できるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 声掛け・あいさつ	・民生委員を中心に地域の子ども見守り隊の方々と一緒に、登下校時の声掛け・挨拶を実施。 ・友愛訪問時等に各種行事への参加を要請。
② 行事に集い世代交流	・白山小学校と合同で作品展及びワラ細工作りを実施し、大勢の参加者を得て好評の内に終了した。 ・今年も秋の落葉時期に合わせ、地域の清掃活動を世代を超えて実施。
③ 助けあい安心のまち	・10月に昨年に引き続き防災訓練を新たに放水訓練含めて実施(約150名参加)、スムーズな運営ができた。 ・敬老のお祝い会を実施、温泉に浸り食事をしながら交流を深める機会になった。
④ 高齢者が活躍できるまち	・新潟まつりを初め、今年も本町千灯まつりで灯ろう作りに多くの高齢者から参加をいただき、盛会の内に終了する事ができた。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
地区社協説明会の時に振り返る。	・白山校区コミュニティ協議会ふれあい交流部会で検証を実施。 ・コロナ開けもあり、数多くの行事を実施し、老若男女数多くの参加者を得た。

1 1. 浜浦地区

1. 目標・目指す姿

- ①住んで良かったと思えるまち ～住み続けたい、憧れる地域でありたい～
- ②世代間交流が活発なまち
- ③高齢者が自ら地域活動に参加し、安心して暮らせるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 憧れる、住んで良かったまち	<p>◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。</p> <p>次のような取組みにより、学校と地域の距離感が縮まっているほか、新生児を迎えた家族が地域に暖かく迎えられるなど、地域の一員としての満足感が高まっている。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校と地域がともに参加する多くの取組み（合同演奏会、映画上映会、各種スポーツ大会、海岸林環境保全、フラワーアレンジメントレッスン、モノづくり講座、給食試食会など）の実施。・「赤ちゃん誕生を祝う会」や「子育てネットまつぼっくり」の継続開催。また、地区の防災に関する学習や訓練によって、防災に関する意識や技能が向上するとともに、参加者交流の機会となり、万が一に対する安心感が高まった。
② 世代間交流を活発に	<p>次のような取組みにより、地域に関するもの、こと、人の発見があり、地域を愛する心が育まれ、世代間交流の活発化とともに、新たな実践への発展が期待される。</p> <ul style="list-style-type: none">・地区の歴史、風土（海岸林等）の学習や、地区に暮らす人の経験等に基づく講習実施。（防災、うつ病とは、保護司活動等）・“つどい”や公民館文化祭のほか、自治町内会単位で世代を超えた交流行事を継続実施。
③ 高齢者が自ら社会参加しやすいまち	<p>地域の茶の間が継続開催され、より身近な範囲で気軽に集まり、顔が見える関係ができています。</p>

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無 (詳細も記入)
適宜、コミ協の会議で発表をする。	地域福祉活動を担っている団体等の集合体であるコミ協の毎月の会議の場でそれぞれの活動状況が発表される。 それらの情報を踏まえ、一年間を振り返った検証の素案を地区社協が作成し、コミ協の場で了承を得た。

1 2. 関屋地区

1. 目標・目指す姿

- ①みんなが交流し、協力しあえるまち
- ②子どもたちが生き生きと育つまち
- ③健康に暮らせるまち
- ④安心・安全なまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① みんなが交流し協力	・中央区社協からの活動交付金を各自治会、町内会に配布、敬老祝い金支給活動費に充当した。 ・中央区社協主催の地域社協連絡会視察研修に参加した。今後の当地区での活動に役立てたい。
② 子どもたちがいきいき育つまち	・関屋浜海岸清掃をコミ協、育成協、関屋小学校と共に計画したが、天候不順のため中止となった。また、計画順延については学校都合により実施できなかった。
③ 住民が健康に暮らせるまち	・大人のラジオ体操の11月までの活動期間延長も2年目となり、特に問題もなく標準化したと思われる。
④ 安心・安全なまち	・「緊急医療情報キット」の各世帯の手持ちの状況確認アンケートにより、希望世帯については10月中に配布を完了した。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
毎年リスニング会議等を開き、計画の進捗を確認する。	・令和7年1月17日にリスニング会議を開催し、上記の項目について検証した。

1 3. 有明台地区

1. 目標・目指す姿

- ①気軽に声をかけあい、おもいやりのあるまち
- ②居場所のあるまち
- ③高齢者と若者が交流できるまち
- ④「新しい生活様式」を実践するまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 声をかけあいおもいやりのあるまち	<p>◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。</p> <p>・地区社協やコミュニティ協議会が主催する「歳末ふれあいお楽しみ会」や「コミ協秋祭り」等の行事はなんとか工夫をしながら開催にこぎつけ、徐々にコロナ禍前に戻りつつある。</p> <p>一方、今度はインフルエンザの警報が発令されるなど、住民同士が顔を合わせたり、声を掛け合う機会が元に戻るには、なお時間が掛かっている。</p>
② 居場所のあるまち	<p>・地域のお茶の間を継続していても、「お茶」も飲めなかったり、お弁当の配布のみに切り替えるなど、お茶の間本来の「居場所」の役割が骨抜きにされている。</p> <p>・参加者の高齢化や参加者数の減少により、残念ながら閉鎖に追い込まれるお茶の間もでてきた。</p> <p>・一方、子どもたちは、参加しにくいお茶の間だったり、減少するお茶の間を見兼ね、自分達で学校内にお茶の間を開催し、地域の住民に参加を呼び掛け始めた。</p> <p>子どもたち自ら、開催内容を工夫し、徐々に参加者数が増えてきている。今後は、地域のお茶の間の経験者が開催案内方法について助言し、益々参加者数が増えるよう応援して欲しい。</p>

<p>③ 高齢者と若者が交流できるまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの健全育成を目指した「親子夕食会」を復活開催し、ようやくコロナ禍前に戻りつつあることを実感できるようになった。 ・ひまわりクラブの一人帰り支援ボランティアの活動は、ボランティアのワクチン接種、マスクの着用、手指の消毒やソーシャルディスタンス等の感染症対策を実施したうえで、休止することなく継続している。小学校で学級閉鎖が実施されたり、利用者に感染者が判明した場合は、クラブの支援員と情報の連携を取りながら乗り切っている。
<p>④ 「新しい生活様式」を実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症が2類から5類に移行したことにより、マスクの着用が自己判断に委ねられたものの、着用が習慣になってしまった人がかなり多い。 コロナ禍で免疫が減少したことにより、最近ではインフルエンザが猛威を振っている。 マスクの着用や手指の消毒等の感染症対策は、「新しい生活様式」の基本中の基本であることを再確認し、今後とも実践していきたい。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無 (詳細も記入)
<p>目標の各項目について自治会・町内会役員をはじめ町内の住民にアンケート調査を実施し、その結果を回覧する。</p>	<p>・上記2のとおり、コロナが収束するかと思えば、インフルエンザの警報発令で、コロナ禍前に戻るには今少し時間がかかることから、住民等に対するアンケートの実施は中止する予定である。</p>

1 4. 南万代地区

1. 目標・目指す姿

- ①ご近所さんの顔がみえるまち
- ②人と人との助けあいやつながり、交流のあるまち
- ③健康で、安心・安全で、暮らしやすいまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 組織の機能強化	(現在進行中) 能登半島地震の時の避難状況を見て、防災の意見交換を3回、この2月に4回目を開きます。 市では避難所開設・運営を進めているが、コミ協では避難に至るまでの状況、正しい情報の取り方などを簡単にまとめ、パンフレットとして配ることを考えている。(第1次避難と第2次避難の違い、スマホからの方法など)
② コミ協会員への加入	(着手できていない) 集合住宅へのアクセス方法が見当たらず、苦しんでいる。
③ 活動行事の宣伝	(現在進行中) 「コミ協だより」を2回発行し、各施設に配布。取り組みとしては充実している。 ②にも関係しているが、子どもを巻き込んだイベントを行うことにより、祖父母、親、兄弟を引き込んでいきたい。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
運営委員参加の「組織の強化を検討する会（仮称）」を設置し検証する。	意見交換会を続けていき、コミ協内の町内会・自治会が関心のある事項を話し合っていく。 （事例）「限界町内会」が出てきている

15. 万代地区

1. 目標・目指す姿

- ①みんなが気軽に話せる風通しの良い街
- ②住民が地域に関心を持ち、地域行事に参加する街
- ③ハード・ソフト面の環境整備が進む街

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① リーダー育成と拠点の整備	・当地区では、核家族、単独高齢者増加などの問題を抱えていて、地域の自治町内会などとコミ協が連携をして問題を共有して人材の発掘、育成を図る。 ・受け皿となる“コミ協事務所”の整備等を行う。
② 企画と広報	・各自治町内会などに首長を通して問題を共有し、必要に応じて、各種勉強会や説明、講演会などを開催する。 ・コミ協が主催するホームページなどを利用して周知させる。
③ 意見の集約と発信	・毎月開催されている“コミ協役員会”において問題を定義し問題毎の解決策などを議論し、その中の問題を順次共有して、ホームページや地域広報等のメディアを通して発信する。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
前回の計画とも照らし合わせながら、地域の話し合いの場で検証する。	・年々変化する地域を取り巻く環境に、逐次対応しながら地域の組織の新陳代謝やコミ協の現状などを地域に説明しながら、次世代の地域の担い手を発掘、要請をし続けていって、組織の見える化などを積極的に持続可能な組織運営できるよう総会などを通じて発信していく。

16. 長嶺地区

1. 目標・目指す姿

- ①元気で長生き～びんぴんころりん～
- ②安心安全、活力のあるまちづくり
- ③地域活動の担い手の育成

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 交流と深化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間「たんぼぼ」「料理教室」を月一回、「チューリップ」を毎週開催して、交流の機会を作った。三世代交流会・新春寄席・クリスマス会・元気ウォーク・芋煮会等を開催し、世代間交流を図った。 ・移動スーパーで買い物支援の取り組みを行った。
② 見守りの体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい給食と民生委員の友愛訪問で、高齢者の見守りを行った。 ・毎朝小中学生の登校時に、交通誘導、交通安全指導を行った。 ・自治会町内会毎の防火防犯パトロールをおこなった。
③担い手の育成 意見の集約と発信	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーキャンプ、小学生の入学卒業を祝う会や芋煮会を開催して子育て世代の参加を得た。 ・若手が参加できるイベントを通して、担い手の育成を行っていきたい。 ・活動毎にコミ協だよりを発行し活動を発信する。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
年に1回、長嶺コミ協地域福祉活動部会にて検証する。	・毎月開催している役員会を、地域福祉活動部会にあて、検証を行った。

17. 沼垂地区

1. 目標・目指す姿

- ①いろいろな人が明るく元気に助けあえるまち
- ②地域と学校が協働できるまち
- ③高齢者の活動が活発なまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 挨拶のあるまちづくり	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。 ・古い土地柄なのか、挨拶は大変良く行っています。
② 学校との協働	・学校と町との交流も増して、意見交換の場も大変多くなってきました。
③いきいき高齢者 健康維持・介護予防	・市の老人憩の家沼垂荘に於いて、何グループかの女性（高齢）が集って、2時間位で、踊ったり、手話の練習をしたり、クイズ等の活動を行っています。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
沼垂小学校区コミュニティ協議会で周知をし、福祉部を中心に総会で検証を行う。	・4月開催の総会で行う予定です。

18. 鳥屋野地区

1. 目標・目指す姿

- ①住民どうしのあいさつと交流があるまち
- ②世代間交流ができているまち
- ③災害時の支援体制が充実したまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① あいさつと交流	<ul style="list-style-type: none">・地域での朝のゴミ出しでの挨拶。・通学、通勤、近所の人との関わり。・児童との下校時の会話。
② 世代間交流	<ul style="list-style-type: none">・鳥屋野小学校での「とやのふれあい祭り」の開催。・小学校体育館でのクリスマスお楽しみ会、ミニ運動会の実施。・各自治会での歳末助け合い餅つき大会の開催。
③ 災害時の助け合い	<ul style="list-style-type: none">・6月22日（土）鳥屋野小学校で鳥屋野自主防災会主催の防災訓練を実施。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
計画を自治会で配布し、半年に一度くらい見直す場を持ちたい。	<ul style="list-style-type: none">・隔月でのコミュニティ協議会、役員会での話し合い。

19. 上山地区

1. 目標・目指す姿

- ①向こう三軒両隣が生きているまち
- ②小さな活動が積み重なり、あいさつがし合えるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 向こう三軒両隣	<p>◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。</p> <p>① 1月1日の能登地震について</p> <ul style="list-style-type: none">・当地区には指定津波避難所が2ヶ所ある。地震発生時には、それぞれの避難場所に想定を超える人が押し寄せて混乱状態に近い状態になった。・コミ協や各自治会、施設管理者の学校職員、新潟市や中央区の職員と連携をしながら、避難された方の対応にあたった。様々な方が避難して、各々に迅速に判断、対応しなければならなかった。（歩行が困難な方、ペットを連れてきた方、乳児を抱えている方、車椅子の方、障害のある方・・・）・災害はそれほどでもなかったが、津波警報が発令されたことで動揺して避難された方が多かったのかもしれない。津波避難に際して、地区内の「津波自主避難マップ」を作成し、全戸配布しているが十分に周知されていないことが分かった。また、避難者対応についても、地区内で温度差があることも分かった。・現在は能登地震を契機に、コミ協、防災士、地区社協、各自治会担当者が中心となり避難所検討会を早急に取りかかっている。これにより、地域ごとの温度差や認識の違いがあっても、災害時の対応について統一した取り組みや災害に備えた取り組みができるものと考えている。避難所となっている中学校、小学校を合わせた「避難所運営マニュアル」を作成している。また、「津波自主避難マップ」を再度配

<p>① 向こう三軒両隣</p>	<p>布するかも検討している。(web 上では掲載済みである)</p> <p>② 福祉施設見学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミ協の福祉部会との共同開催で「よつば学園見学会」を行うことができた。昨年度に企画したものであるが、先方がコロナウイルス感染症とのことで中止となったのである。参加予定者から、「ぜひ今年は開催してほしい」という声が多かったことから2年越しの開催となった。 ・ 「よつば学園」は盲学校、聾学校が合併して開校した特別支援学校である。盲、聾、知的障害の3種の障害種の子供たちが在籍し、共生のある学校生活をおくっている。幼稚部から高等部、更に国家資格取得を目指した理療科がある。 ・ 生徒は自立と社会参加に必要な力を見つけるために日々学んでいる。 ・ 寄宿舎も併設しており、遠隔地からの生徒に対応している。生徒の生活リズムを整え、体と心の健康維持に取り組んでいる。寄宿舎同士の関わりを大切に、集団生活を通じた協調性と同時に自分の役割を考える力を育てていることにも力を入れている。 ・ よつば学園の見学を通して、普通小学校、中学校では見られない学校施設や学校の方針、教職員の取り組み、授業の参観ができたことは、参加した多くの人が「参加してよかった」「この見学したことを地域に伝えたい」などの感想が聞かれた。
<p>② あいさつし合える関係づくり</p>	<p>① 地区内の人口増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟市の人口減少を報道等では言われているが、当地区はマンションやアパートの集合住宅に加えて一戸建ての建設も盛んである。世帯数の増加や人流増加は地区内の活性化という面では良いことである。 ・ しかし、人流増加に伴い問題も多数発生している。住民間や地区内の事業所と住民のトラブル、自治会やコミ協に対するクレーム、除雪に対する不平、交通事故の増加など日々増えるばかりである。

<p>② あいさつし合える関係づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関と連携した対応が求められるが、どのように対応したら良いのか、どこと連携したら良いのか、トラブル解決後の関係性の悪化など難しい問題が山積みしている。 ・しかし、コミ協や各自治会の活動を理解してもらいながら、住民同士や各活動への参加・協力を地道に行う方法がベターではないかとの結論になっている。 ・今後は、さらに上山地区らしい「スマート」な運営を目指していきたい。 <p>② 防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の防災訓練は昨年度に引き続き小学6年生と中学生のボランティアも参加して開催された。1月の地震があつてから、参加者は他人事のように思うこともなく真剣に参加していた。 ・内容は昨年度と同じく新潟大学教授の卜部先生から津波の発生や液状化現象について講義と質問で災害発生時の対応について考えた。上山地区に於いては液状化や家屋の倒壊など被害はほとんどなかったが、災害に備えることの大切さや災害時の正しい知識が必要不可欠であることが分かった防災訓練であった。 <p>次年度はマニュアル作成を機に内容や参加方法の検討をする必要がある。</p> <p>③ コロナ後の気になること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の活動は、コロナ感染症前に戻っている。しかし、春ごろにコロナ感染者が出たことで例年行っていた祭りが中止になってしまった。一部ではあるが予断を許さないところもある。
------------------------	---

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
6年計画は長いので振り返る機会を持ち、課題があれば見直していきたい。	<ul style="list-style-type: none">・民生委員との情報交換会もコロナ後2回目の開催をすることができた。そこで、1年の活動や取り組みについて話し合う機会がとれた。再開したこともあり、活発な情報交換会と検証、今後の活動や課題について話し合うことができた。・民生委員からも社協やコミ協の活動に参加、協力してもらい、たくさんの意見が聞かれたことは有意義なものであったと考えている。

20. 女池地区

1. 目標・目指す姿

- ①安心・安全で住みやすいまち
- ②みんなで声をかけあうまち
- ③三世代が地域に根ざすまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 安心・安全住みやすいまち	(1) 災害関連 ・紫竹山小学校で紫竹山コミ協と共同で防災訓練を実施。 ・女池小学校で防災研修会を実施。 ・生涯学習センターで能登半島地震の復興説明会を開催。 ・山形県防災学習館へ研修視察。 (2) 学童見守り ・約70名の見守り隊で立哨、ながら見守りを実施。 (3) 医療情報キット ・各自治会から申請を受け、医療情報キットを配布。 (4) 草取り活動 ・各自治会が任意の日に草取り活動を実施した。特にバイパスの側道はどこもきれいである。
② みんなで声をかけあうまち	(1) 健康体操 ・月2回健康体操を実施、毎回40名以上が参加、うち1回は講師都合により、落語会に変更。 ・健康体操実施日にミニ研修会を年2回開催した。 (2) 地域の茶の間 ・全6団体に各年額25,000円を助成。 (3) トリットボール大会 ・春と秋に大会を開催し、それぞれ40名程度参加した。

<p>③ 三世代が地域に根ざす</p>	<p>(1) 野球大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10代から70代までの選手が集まり、春と秋に2回の大会を実施し、交流を促進した。 ・野球大会100回目の記念懇談会を開催し、設立時に関わった人など50人以上が参加した。 <p>(2) 女池小学校ふれあいスクール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が多数参加し、子供たちと交流を図った。 ・女池小学校150周年記念誌の作成を進めた。予算は200万円程度。
---------------------	---

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無 (詳細も記入)
<p>6年計画は長いので振り返る機会を持ち、課題があれば見直していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部会、役員会、総会でその都度振り返りを実施している。 ・コミ協だよりを年2回発行し、振り返ると共に、全世帯に配布し活動報告を実施している。

2 1. 上所地区

1. 目標・目指す姿

- ①健康寿命を長くするまち
- ②ご近所さんの顔が見えるまち
- ③隣近所の住民同士が語り合え、自然と助け合いができるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 健康寿命を長くするまち	<p>◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者対象貯筋運動（4月～3月）2～3月の見込含む 毎週金曜日開催：46回、延参加人数：3,390人 対象者の生活質向上のサポート、参加意欲も高く参加者の健康寿命延伸に寄与している。・健康寿命延伸をテーマの講演会 9/28（土） 「認知症学んで支える地域の力」 講師：みどり病院 認知症看護認定看護師 志賀木綿子氏 87名の参加を得て開催、認知症の予防と対策について寸劇を交えての講演は評判が良かった。 地域包括支援センターの説明時間も安心感を与えた。
② ご近所さんの顔が見えるまち	<ul style="list-style-type: none">・「地域の茶の間担当者会議」 6か所<ul style="list-style-type: none">●6/13（木）地区社協、コミ協福祉保健部会として案内、活動報告及び意見交換。●2/13（木） 開催者及び参加者に有効なサポート策を実施。●コミ協福祉保健部会が6か所の茶の間を見学。

<p>③ 隣近所の住民同士が語り合え、自然と助け合いができるまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急医療情報キットの配布と訪問（22自治町内会） キット保有者 490 件と新規配布 36 件含む配布先 526 件を訪問して安否確認、保有者 461 件と使用 NG65 件を確認した。訪問品に新潟市指定ゴミ袋を配布。 ・赤ちゃん誕生祝い 10/6（日） 中央区の特色ある区づくり事業で協働、15 組の保護者と赤ちゃんに記念写真と保健師による育児相談で交流が図れた。パパ 7 人の参加は時代の変化。 ・ゴミ出し支援
--------------------------------------	--

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協（コミ協：福祉保健部会）の活動実績から ・上所コミ協の加入自治町内会聞き取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・上所地区社協会長＝コミ協副会長、福祉保健部会。 ・緊急医療情報キットの配布（14 年）と訪問（9 年）は各自治町内会を通じて活動を促進している。 ・各種行事、ゴミ出し支援の有無確認。

2 2. 紫竹山地区

1. 目標・目指す姿

- ①多世代の交流があるまち
- ②子どもたちが明るく元気に育つまち
- ③次世代の育成とふれあいづくり

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 多世代交流	・紫竹山校区と女池校区神道寺地区の自治会防災会及び紫竹山小学校 PTA 共催の防災訓練を開催し、地域住民、小学校 PTA と児童の多世代参加による防災訓練を実施した。 また小学校長、地域消防団員、行政職員との連携を図った。
② 子どもたちを見守るまち	・育成部、セーフティスタッフ、自治会役員による、児童の登下校の指導見守りを行っている。
③ 次世代の育成とふれあいづくり	・紫竹山地区民生委員児童委員は、毎月第一金曜日に駅南コミセンで「駅南茶の間」を開催し、今年も紫竹山小学校の児童、先生を迎え交流を図った。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
6年計画は長いので適宜振り返り、見直しを行う。	・行事实施後に振り返りを実施し、課題の洗い出しを行い、次年度の計画策定に反映させる。

23. 笹口地区

1. 目標・目指す姿

- ①安心・安全なまちづくり
- ②若い力が育ち、次世代へつながるまち
- ③マンション住民と交流できるまち
- ④身近な地域に交流のある場所があるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。
① 安心・安全なまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・ 児童の見守り活動が継続できている。・ 能登地震を受けて津波を想定した防災訓練実施。・ 視察研修で富山の「四季防災館」訪問。体験学習。
② 次世代へつながるまち	<ul style="list-style-type: none">・ 光のページェント参加の児童への支援。・ ほっとハウスで行う児童参加行事の支援。
③ マンション住民との交流	<ul style="list-style-type: none">・ 各自治会で主催する行事へのマンション住民の参加。
④ 身近な地域の交流場所	<ul style="list-style-type: none">・ ほっとハウス事業の「地域の茶の間」「おむすびより」の開催に協力助成。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無（詳細も記入）
コミ協・地区社協の定例会の中で事業計画と共に見直しを図る。	・ コミ協、地区社協の合同定例会（原則月1回）にて計画、現況報告、検討等を行っている。

24. 山瀉地区

1. 目標・目指す姿

- ①多世代の交流がさかんなまち
- ②地域の人同士が顔の見える地域にしたい
- ③身近な場所・活動拠点で交流ができるまち

2. 行動と工夫

行動と工夫	検証
① 多世代交流	◆の項目（1項目以上）への検証をお願いします。 <ul style="list-style-type: none">・地域の茶の間、子育てサロンを活用して多世代で交流する。・各自治会の活動が活発で、「祭り」や「さいの神」などの行事を行い、世代を超えて交流している。・歳末たすけあいお楽しみ会を開催。飲食も伴う開催で、大いに盛り上がり交流が出来た。 (会場：新しい山瀉コミュニティハウス)
② 地域の人同士、顔の見えるまち	<ul style="list-style-type: none">・やまがたお互いさまの活動で、ゴミ出し支援や草とり、雪のけなどの支援活動を通して支えあいの輪が広がっている。 地域包括支援センター山瀉と協力、連携したことにより、一層活動しやすくなった。・見守り活動として、緊急医療情報キット（ファイル形式）を希望する人に配布。自治会等に周知。 毎年周知する機会があることにより、少しずつではあるが理解されてきている。
③ 身近にある活動拠点で交流を	<ul style="list-style-type: none">・山瀉社協、山瀉コミ協、自治会、民生委員の情報交換会を継続して毎年開催。新しい自治会長にも説明する機会となっている。・地区内の小中学校での学校ボランティアの活動。・山瀉コミ協、民児協、社協が連携して各種事業を推進。

3. 検証の方法

検証の方法	実施の有無 (詳細も記入)
<ul style="list-style-type: none">・形に現れないものは進捗の確認が難しい。・中高生が参加し振り返りを行ってはどうか。	<ul style="list-style-type: none">・役員会を随時開催し、情報の共有化を図った。感染症対策をして、事業のできることに取り組んだ。・中高生との振り返りはできなかった。これからは高校生、専門学校の生徒にもボランティア活動に積極的に参加してもらい、話し合いの機会を設けたい。・新しく山潟コミュニティハウスができたが、地区の中心ではない為広報が必要。 →老人クラブや歳末お楽しみ会を開催して知ってもらった。